

I 教育目標、5つの教育方針、目指す学校像

1 教育目標

建学の精神「創造性の開発と個性の発揮」の通り、自由な心と人への思いやりにあふれ、自然を愛し、家庭・社会・人類に対する責任を進んで果たす豊かな人間性をそなえた青年を育成します。さらに、自分の個性を最大限にいかし、この世界に新しい文化を創り出し、広く社会に貢献する有能な人間を輩出することを目標とします。

2 5つの教育方針

教育目標の達成のため、生徒一人ひとりを大切に、個としての人的成長と主体的に生きる力・学ぶ力を伸ばし、かけがえのない自分というものの存在を自覚させます。このため、以下に5つの方針を掲げます。

- (1) 創造性の教育:一人ひとりを大切に、生徒の可能性を発見して育てる教育を行います。
- (2) 主体性の教育:こころざしを育て、視野を広げ、関心を高めることによって生徒の主体性を重視した教育を行います。
- (3) 生きる力の教育:創意ある充実した授業で真剣に学び、厚みのある学力を身に付け、多様な進路を選択できる教育を行います。
- (4) 感性の教育:多様な価値観と出会い、多面的なものの見方を身に付け、感性・直感力を磨く教育を行います。
- (5) 健康と安全の教育:生徒の成長に応じた適切な体力づくりを図り、リスクに積極的に対処する姿勢を養う教育を行います。

3 目指す学校像

本校は進学を重視する一方で、成長に応じるルールやマナーについて考えることにより規範意識を育て、地域に愛される学校を目指すとともに、創意ある授業を通して生徒に幅広い視野と教養を身に付けさせ、学校行事、生徒会・委員会活動、部活動などを通して、「創造性の開発と個性の発揮」の教育目標を担うにふさわしい健康的で人間性豊かな生徒の育成を目指します。このため、授業はもとより人生を豊かにする特色のある行事や体験を数多く織り込み、伝統や校風などを生かす仕組みも大切にします。

(1) 伝統の継承

本学校法人の創立者有元史郎は、「社会的活動の意義を体得させる特色ある教育を行い、以って社会に貢献する」とし、実学志向の教育理念を掲げて本大学の前身、東京高等工商学校を創立しました。ここに創立以来連綿と受け継がれてきた、クリエイティブな教育理念の淵源があると考えます。思い切り個性を伸ばして新しいものを自分の考えで創り出すというクリエイティビティの伝統が、本校の教育活動の中にくまなく行きわたり内外に光り輝く学校を目指します。

(2) 自己実現への支援

本校の教育理念は、生徒の自己実現を究極のねらいとしています。したがって、希望の進路に進むことだけが目的であってはなりません。どんな人間になりたいのか、どう生きたいのか、そしてどのように社会貢献したいのか等、人生上の課題を生徒に投げかけ、生徒の人生観や世界観を磨くことを大切にします。そのために生徒が自ら「育つ」教育環境を重んじ、様々な教育活動の中で、自分で考え、判断し、発言し、責任と自覚のある行動をとるよう指導します。また、長期的総合的な進路指導計画に基づき、生徒がグローバルな視点で進路を拓くことができる学校を目指します。

4 自己実現を達成するための観点

(1) カリキュラムの基本構成

①中学校から(中高6年間) :

中高6年を2年ごとに分け、「ホップ」・「ステップ」・「ジャンプ」の3段階で進路実現を目指します。

- 【ホップ期】 中学1・2年にあたり、国数英を中心に基礎学力を養成し、学習習慣と意欲を身に付け、学力の土台を根付かせます。教科外として、環境理科教育としてのグリーンスクール、文化祭や運動会、博物館見学、語学研修等があります。
- 【ステップ期】 中学3年・高校1年にあたり、自分の「夢」を目標という具体的な形にします。様々な学校行事や生徒活動において、「サイエンス、グローバル」の教育テーマの仕上げを行う時期にも充てます。また高校1年生末には、国数英でバランスのとれた学力をつけ、文系・理系という自らの進路を選択します。教科外として、中学3か年のまとめとして、中学3年生における海外研修があります。
- 【ジャンプ期】 高校2・3年にあたり、文理に分かれて自分の目標の通過点である大学受験に向け、特に高校3年生において、受験科目に合わせた学習を展開します。教科外として、高2 オーストラリア海外研修等があります。

②高等学校から(高校3年間) :

併設中学校からの連絡進学生(中入生)と高校からの入学生(高入生)は、英数国理の授業進度が異なるため1年次のジェネラルラーニングクラスでは中高別クラス編成とし、高入生は月から土まで毎朝25分間のモーニングレッスンで英・数・国・化をより多く学習し進度を合わせます。一方、選抜者で構成されるグローバル・サイエンスクラスは中入生・高入生混合編成とし、高入生には数学のみ補習を実施します。2年次に文系・理系に分かれるところでジェネラルラーニングクラスでは中入生と高入生を混ぜ、数学の一部の科目で習熟度別の授業をすることで、きめ細かい学習指導を行い、3年次には、各個人の進路に合わせたきめ細かい選択コースを多数展開し、進路目標の実現を図ります。

(2) 進学コースの設定と取組

<高等学校>

- ①2015年度より高校1年に、中学からの連絡進学生の希望者と高校入学生の希望者から成績優秀者で構成された「グローバル・サイエンス(GS)クラス」1クラスと従来のカリキュラムをより洗練させた「ジェネラルラーニング(GL)クラス」6~7クラスの2コースを設置しています。
- ②GSクラスは、東大などの難関国立大での研究や学問をし、日本や世界に貢献する人材を育成することを目的に、能動的な学修などを取り入れながら高度な授業内容を追求します。2時間の特設時間において、これまでのシボウラサイエンスクラスの実績をもとに、自然科学のテーマの他に社会科学・人文科学の範囲を含めて、探究的な課題研究を

行うとともに、英語で論理的に書く力を育てます。GLクラスは、補習の強化などにより、主要5教科の苦手をつくらず、国公立大合格に対応できる学力の育成を目指します。

<中学校>

2016年度より、中学校でもグローバル・サイエンスクラスを設置しています。入試段階における成績上位者を選抜のうえ1クラス編成し、その後は習熟度別で一部入れ替えながら高校のグローバル・サイエンスクラスの準備段階として位置づけています。

(3) 主体的に「学び続ける生徒」を育てる特色ある教育活動 ～グローバルとサイエンス～

能動的な学修を実践することにより、自ら「学び続ける生徒」を育て、グローバル、サイエンスという二つの分野による特色ある教育を充実させます。中学校では、一人一台のタブレット・PCを持ち、さまざまなプレゼンテーションや「全国中学高校Webコンテスト」への参加など、主体的に学ぶ生徒を育てます。高校でもこうした機会を多く設定します。また、PCを用いたWeb学習システムを導入し、主体的・分析的に学習する生徒を育てます。

グローバルの核となる英語教育では、4技能を重視したコミュニケーション重視の英語教育を行います。また中学3年では、生徒全員によるニュージーランドへの短期留学・ホームステイ(2022年度以降)を計画し、英語を使った海外体験を行います。さらに高校2年でのオーストラリア海外研修(2023年度まで予定)において、一層の英語運用力を育てます。他方で中3～高2の希望者による英国、アメリカの短期研修、オーストラリアのホームステイの他、海外の大学へ進学を志す生徒への支援などを行います。

サイエンス教育としては、中学校では、南会津に所有する「芝浦創造の森」を中心として活動するグリーンスクールでの自然環境学習から、研修先での環境学習体験などで、地球環境についての関心や態度を育てます。また、高校ではスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の活動を中心に、グローバル・サイエンスクラス、ジェネラルラーニングクラス(課外)における特別な理数教育を行い、理系に強い生徒を育てます。また、理系女子を育てる試みや高大接続教育などを芝浦工業大学と連携して行います。

II 中期目標と方策

1 授業方法、学習評価の研究と新教育課程の作成

2021年度入試から実施された「大学入学共通テスト」や英語などの入試改革において、4技能型の民間の資格・検定試験を活用する方針が打ち出されている現状を踏まえ、現行の教科・科目の枠を越えた「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を育てるために、これまでの時間割やカリキュラム、授業内容を見直し、難関大学などをはじめとする進路実現の方策を進展させます。

- (1) 各教科会を統括する教科主任会議と進路部が連携して、能動的な学修をはじめとする授業方法を研究し、生徒がより深い理解力を身に付けるような授業実践を増やします。
- (2) 生徒の自学自習、主体的で協働的な取組が学力定着・向上に結実するように、2017年度に作成した「SK学習ルーブリック」の有効な活用方法、様々な「勉強の仕掛け」や「学力を伸ばす仕組み」を各学年会、各教科会で検討し、実施します。
- (3) 学校行事を精査し学習効果がより高まる年間日程表を作成し、計画的な学習進路指導の強化に努めます。
- (4) グローバル・サイエンスクラス、ジェネラルラーニングクラス各々に適した授業を行い、確実な学力の定着を目指します。
- (5) 2022年度より実施される高校の新学習指導要領に向け、本校の教育目標に合った新たな教育課程を作成します。

2 進学実績の向上

難関・有力大学への合格を確実にするため、以下の受験力向上システムを整備します。また、個々の進路に合わせたカリキュラム選択をより充実させるとともに、戦略的なクラス編成を工夫するなど、各学年会が進路部の支援を得ながら生徒個々の受験力について分析し、教科会と連携して受験力の向上を図ります。

- (1) 自立的な学習者を養成するシステムを学校全体で共有します。2年目を迎える共通テストの合計得点率が受験者平均で75%となる受験力を獲得できるシステムを整備します。教科得点率は、国語・数学・英語の主要教科で80%、理科・社会の選択科目は70%台後半を目標とします。東大現役3名、東大レベル(京大、国立医学部、東工大、一橋)5名、早慶上智現役60名、早慶上理GMARCH国公立いずれか1校合格実数率60%、理科大70名以上、千葉大+筑波大現役30名。
- (2) 進路部を中心に進学指導ノウハウを積極的に、教員をはじめ生徒・保護者にも発信し、学校全体での共有を図ります。
- (3) 学力向上策の具体化に力を入れ、特に能動的な学修につながる研究を行います。学習スキルの指導、試験に対する事前事後指導、Webによるビデオ教材の導入を通じ、反転学習など、生徒自らが自己分析を行い、目標に向かって学ぶ仕組みを作ります。
- (4) 能動的な学修や反転学習、英語4技能の習得など、教育改革の動向に合わせ、また高校の学習指導要領の改訂による大学入試改革(2025年度入試)に対応するように、教員研修に努めます。
- (5) 学力到達のチェックは、「ホップ・ステップ・ジャンプ」3段階の節目において詳細に行います。また、内部評価では進路部、学年担任団が連携して模試などの成績分析を行い、学力向上の取り組みを総括します。

3 グローバル教育の展開

情報技術の急速な進歩による世界の一体化のなかで、異文化理解をしながら活躍できる人材の育成を目指します。

- (1) 英語教育において「聞く・話す・読む・書く」の4技能を育てる中で、特に「聞く」「話す」機会を多くするようなカリキュラムの構築を目指します。
- (2) 英語の運用能力を高める海外での体験を増やします。中学においては、中3生徒全員を対象としたニュージーランドへの短期留学・ホームステイ、高校においては、希望者によるイギリス、オーストラリア、カナダ、アメリカへの短期ホームステイを企画します。また、芝浦工業大学への推薦生を対象とし、カナダ、ニュージーランドの語学研修、タイでの国際PBL(問題解決学習)活動への参加を展開します。
- (3) イギリス、オーストラリアなどの大学のアドミッション担当者と直接連携し、校内で説明会を開いて海外大学への進学を促進します。

4 スーパーサイエンスハイスクール (SSH) の取組

本校は、2004～2008 年度〔第Ⅰ期〕、文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」の指定校となり、その後、再度 2018～2022 年度〔第Ⅱ期〕 (5 年間) の指定を受けることができました。

- (1) 高校 1、2 年に学校設定教科としておかれている「SSC」において、理数系だけではなく、社会科学・人文科学系のテーマをも含む、生徒が主体的に取り組む探究型教育を実践します。
- (2) 科学部を中心に、先端研究者を目指す生徒を育成し、積極的に発表の機会を得て、全国レベルの実績を収めるように努めます。
- (3) 芝浦工業大学との連携を活かし、理系女子を育成する企画を展開します。
- (4) 中高一貫理数探究プログラムの開発を目指します。
- (5) SSH 活動において、ルーブリックを用いた評価法の研究を行います。
- (6) スーパーグローバル大学 (SGU) である芝浦工業大学の海外協定校との高大 4 校連携相互交流プログラムを展開し、グローバルに活躍できる理数系人材を育成します。

5 中高大接続教育の充実

法人本部、「中高大連携推進検討委員会」などと連携して、芝浦工業大学との中高大接続・連携教育の充実を図ります。

- (1) 芝浦工業大学への関心を高めるよう、6～7 月に行なわれる全 16 学科説明会に、高 1、高 2、高 3 希望者を参加させ、各学科の特徴や研究内容への興味関心を喚起し、高 2・高 3 での大宮、芝浦、豊洲キャンパス見学参加につなげます。また、芝浦工業大学卒業生 OB・OG 講演会などを通じて、芝浦工業大学への進学意欲を高めます。
- (2) 男子生徒とはまた違った進路選択を行う女子生徒向けに、ロールモデルを示しながら、より深い進路研究の知識と方法を得られる講演会や公開講座を開催します。
- (3) SSH の課題研究、科学部の活動、Web コンテストの探究活動などにおいて、芝浦工業大学の教員、院生・学生の指導やアドバイスを積極的に受けられる態勢を構築します。

6 広報活動の充実と入試改善

教育活動の内容を活発に広報するシステムを構築し、さらに中学においては、新たな入試内容や方法を工夫・改善します。

- (1) 学校案内やホームページを常にリニューアルし、本校の教育内容、進学実績を分かりやすく明示します。
- (2) SSH の活動を核として探究型の実践が増える中で、それらの広報を通して、中学入試において広範に優秀な受験層の獲得を目指します。
- (3) 毎年度、入試日程、入試回数、出題傾向を検討し、塾・保護者に対し迅速に公表します。

7 防災体制の充実

学校法人災害危機管理規程(2012 年 4 月 1 日施行)に基づき、柏キャンパスにおける防災体制の充実を図ります。

- (1) 「柏校舎災害危機管理基本計画書」及び「生徒用防災マニュアル」に基づき、防災訓練を適切に実施します。
- (2) 防災用品の充実と使用時の効率化を考え、管理体制の向上を図ります。
- (3) 基本計画書に基づき施設設備の要改善箇所を提言し改修します。

8 周年記念事業の実施・計画

柏高等学校創立 40 周年記念講演会、式典、祝賀会は、記念事業委員会を 2015 年度以降、毎年 2 回開催し、事業内容の検討・審議を重ね 2019 年度に無事終了しました。今後は 2029 年度の創立 50 周年を目指して、記念事業の実施に向けて財源を確保すべく、PTA に積み立てをお願いするとともに、同窓会にも協力を依頼します。

Ⅲ 2021 年度教育活動の重点目標

1 学力の充実・向上

- (1) Google Classroom やフォームを利用した積極的な家庭学習指導を促進し、また Google Meet や Zoom によるオンライン授業も活用し、より効率的かつ効果的な授業の実施を進めていきます。そのために、教員間での授業見学や教科内を中心とした相互交流を活発化させていきます。
- (2) 思考力を重視する学力観に基づき、定期考査とレポートなどの課題提出のバランスを追求し、適切な定期考査のあり方を提案します。
- (3) 定期考査の作問力を向上させるために、教科内での検討機会を設けて定期考査を通じての学力向上を目指すとともに、考査の厳正なる実施のために、より現状に適した定期考査のあり方を提案します。
- (4) 全教室に設置が終了した、ワイド (短焦点プロジェクター付きホワイトボード) での効果的な授業内容の創意工夫に努めるとともに、オンライン授業や反転授業と組み合わせた新しい学習環境の構築に努めます。

2 学習の充実および多様な進路実現・能力開発にむけてのコース・カリキュラム選択

- (1) 2021 年度入試から開始された大学入学共通テストにおいて 5 教科 7 科目受験の国公立希望者 140 名を目指します。
- (2) 本校の中位層が千葉大学で合格できるよう共通テストで平均 75% の得点率を目指します。そのため、マークカードの利用や共通テスト対策講座を実施し、生徒にフィードバックします。
- (3) 昨年に引き続きコロナ禍に影響を受けることのないよう、「学習を止めない」をテーマに、オンライン授業の研究を進め、カリキュラムに遅れが出ないよう授業を進めることを徹底します。同時にスタディサプリやスクールタクト等を併用し、自学自習が出来る環境を整えます。
- (4) 英検受験を推進し、生徒の状況について、担任や学年団が把握し、助言できる環境を作ります。また、その他の外部検定試験についての研究を進めます。
- (5) 高校 1、2 年生を中心に、キャリア教育を推進し、大学の志望学科などについての探求が進むような進路行事検討します。
- (6) 理系に進学する女子を増やすために、さまざまな方策を検討し、イベントを実施します。
- (7) オンラインを併用しながら種々の進路行事や面談などを実施し、生徒が自分の希望の進路を見出すうえでの支援を行います。

- (8) 面談や進路行事を通してカリキュラムやコース選択を提示し進路実現へとつなげます。
- (9) 昨年度から始まった大学入試における総合型選抜・学校推薦型選抜に対応し、「主体性・多様性・協働性」などを育むとともに、各自のポートフォリオでの記録を促すなど、多様な入試方式への対応を促します。
- (10) 種々の英語関連講座などを通じて英語4技能の能力を高めるとともに、外国の文化・価値観や国際的な問題を理解して、さまざまな場で活躍できるグローバルな人材育成に努めます。

3 生徒活動及び生徒指導の推進

- (1) 学校生活における基本的な新型コロナ感染拡大防止対策の行動指針を生徒に示し、感染予防を心がけ行事や部活動に取り組んでいけるよう指導します。
- (2) 新柏駅や電車、バス乗車時のマナー向上への対策を立案し実行します。
- (3) 文化祭について、情報部と連携し、オンライン参加型の開催方法を検討します。
- (4) 制服の着こなしについて、指導基準を提案し教員間の感覚を揃えます。また、制服のジェンダーレス化について議論します。
- (5) BYOD (Bring Your Own Device) の導入に伴い、スマートフォン等の使用方法について、引き続き生徒と教員が協働してルール作りを進めます。高校各学年と連携し、生徒がこの問題をきっかけに、自由と統制、規律、責任等について、不定期でも考える機会を創ります。
- (6) 地域に貢献する活動を立案し実践する機会を設けます。

4 健康な学校生活の推進

- (1) 新型コロナ感染拡大防止のために、学校生活の様々な場面を想定し行政のガイドラインに準じて対策を講じます。
- (2) 生徒および教職員の健康診断結果に基づき、すみやかに検査や治療の勧告をします。インフルエンザ、麻疹などの予防接種を勧奨します。養護教諭による保健指導、AED・心肺蘇生法・エピペンの講習会を引き続き実施します。
- (3) 「食育」を継続して推進します。カフェテリアの業者と協力しメニューが生徒の健康と安全に配慮したものになっているか確認していきます。また、学校内で販売している飲料に関しても同様に確認していきます。
- (4) 相談室「クオレ」において生徒の学校生活への適応や、教員・保護者の対応を支援します。引き続き教員向けの研修会や事例検討会を実施します。
- (5) 中学生の「心の教育」を推進し、道徳やワールドデーなどの活動を通して、豊かな心を育てる学校を目指します。

5 ICT を利活用した教育の推進及び校務の DX 化

- (1) Google Classroom、Google フォーム、Google ドライブを始めとした Google Workspace の活用の研究を進めます。また、これらの活用により、校務の DX 化を推進します。
- (2) ワード、Wi-Fi を活用した教育を推進します。中学生、高校1年生に関しては昨年度より導入しているスクールタクトを活用することで協働学習を深化させます。
- (3) ICT を主体的に活用できる生徒を育てます。授業時以外でも ICT 機器を適切に利用することを目指します。

6 読書習慣の形成と ICT 教育環境の推進

- (1) 生徒がより読書に意識的に取り組むよう、図書室の閲覧環境などの改善をはかるとともに、委員会活動を活性化させ、様々な読書を促す取り組みを実施します。
- (2) ICT 化を進めて視聴覚・情報機器を活用しやすくし、ワイドやスクールタクトなどの活用など、より効果的な授業環境の整備を図ります。

7 「家庭と学校」「地域と学校」の連携及び安全の推進

- (1) 防災、危機管理の体制を再検討し、コロナ禍に影響を受けることのない災害時の避難連絡体制を構築します。また、日常から防災訓練を定着させ、より有効な防災備品の追加、備品管理場所の確保などを行い、非常時に円滑に行動できるように全教職員、生徒に周知徹底を図ります。
- (2) PTA、同窓会との連携を図り、諸活動の活性化を促します。
- (3) 式典は厳粛で、生徒保護者に満足されるように、行事は効率的かつ一体感をもって安全に運営します。

8 入試広報活動の充実・募集形態の研究

- (1) 学校説明会においてアドミッションポリシーを明確に示し、入試形態を簡潔に説明していきます。また、対面の説明会とオンライン説明会の併用など様々な説明会や相談会を企画し実施していきます。
- (2) 学校概要や教育の特色を簡潔に盛り込んだ学校案内とそのデジタル版を作成し相談会等で活用します。
- (3) 本校の教育の3本柱である「探究活動」「サイエンス教育」「グローバル教育」の説明は勿論のこと「ICT教育」の活動報告を外部へわかりやすくPRしていきます。
- (4) ホームページや SNS を活用して、本校の教育の特色や中学・高校入試の情報などを発信し、受験生獲得に向けた広報活動に生かしていきます。

9 事務室によるハード・ソフト両面にわたる学校運営支援体制の深化

- 千葉県内における私立進学校としての地位確立、強化につながる本校の取組に事務の観点で貢献します。
- (1) 理事会による校舎・施設等の将来計画を注視しながら、一部老朽化の進む施設・設備について、必要に応じた迅速な修繕・改修を施すことで、教育環境の維持・美化に継続的に努めます。なお、状況を十分に把握し、法人関係部課とも協議した上で、修繕・改修時期に関する的確な判断を下します。
 - (2) 学年主任会・教科主任会・グラウンドデザイン検討委員会との連携を密にすることで、各会から上がってくる事務関連諸提案や要望に関する検討を迅速に行います。
 - (3) 教室内 ICT 機器の音響や会議室等の教員エリアにおける Wi-Fi 環境などについて校内関係分掌と協同して改善・向上に努めます。
 - (4) 4 年目となるスーパーサイエンスハイスクール支援事業に付随する諸事務を、研究部と連携して正確かつ確実に進めます。
 - (5) 生徒の探究活動や本校のカリキュラム改訂における芝浦工業大学との連携について事務室が結節点となり、取組の促進や新プログラム立ち上げなどに寄与する。

(6) 法人担当部署とも連携のうえ、新型コロナ感染拡大防止に向けた安心安全な環境構築に注力しつつ、校内での感染者発生時には速やかに行政とも連携を行えるようにします。

10 生徒の理解が深まる授業・研修活動の充実

- (1) 新型コロナ感染防止に配慮したうえで効果的な授業方法を検討し、授業力の向上を推進します。また緊急の際には、即時オンライン授業に対応できるよう、昨年度の成果・課題を踏まえて、準備をすすめます。
- (2) 高大接続改革や新たな学習カリキュラムの開始を踏まえ、今後求められる学力観の理解を深めます。それらを育成するための中高6か年に渡る系統的な学習方法・評価方法の検討をすすめます。
- (3) ICT機器などを活用した授業開発への試みを推進するとともに、教員相互間の共有にもつとめます。
- (4) 「SK 学習ルーブリック」を使って評価する場面やその方法を再検討し、個々の生徒が各自の学習をはじめとする諸活動において、現状や課題を分析できる環境づくりにつとめます。

11 スーパーサイエンスハイスクールとしての実践の充実

- (1) 『Creative, Studious and Communicative(CSC)～創造力を発揮し、粘り強く取り組み、その成果を積極的に発信する～』を掲げ、将来社会で活躍する科学技術人材を効果的に育成する研究開発に取り組みます。
- (2) GS・SS 探究授業，総合的な学習の時間，通常授業，その他あらゆる教育の場において、広く教育の探究化を推進し、中高一貫カリキュラムの開発、改善に取り組みます。
- (3) CSC ルーブリックに基づいた評価の研究に取り組みます。また、探究力育成を主眼とする教員研修プログラムの開発と改善に取り組みます。
- (4) 芝浦工業大学との高大連携・接続プログラムの開発と改善に取り組みます。また、外部諸機関と連携して、特別講座等を実施します。
- (5) 昨年度休止の SSH サイエンスツアー、留学生との交流に代えて、千葉大学国際発表会への参加、英語ポスタープレゼンテーションやオンライン交流等のグローバル化教育を取り入れ、グローバル人材の育成を図ります。
- (6) 実験・研究の実施に当たっては、従来からのゴーグル着用，安全実施報告書の事前提出に加えて、新型コロナ感染拡大防止対策としてのフェイスマスクや防護カーテン等の防護措置を必要に応じてとり、実施します。

(以上)